

# 集落の農地をどのようにして守っていくか！

## ～WCS用稲を活用した遊休農地解消～

所 属 名：北薩地域振興局農政普及課出水市駐在  
発表者名：木村 浩司

### <活動事例の要旨>

出水市の水稲経営体が、出水市では農地確保が難しいため平成30年に隣接する阿久根市折口の耕作放棄地約5haを、令和元年には新たに5haを復田してWCS用稲を作付した。

市など関係機関のサポートによる農地の連担化や水管理等の栽培技術指導により、湿田でも大型機械での収穫が可能になったため、収穫した畜産農家からも高い評価を得ており、地域農業の維持・発展につながる取り組みとして期待される。

### 1 計画された活動の課題・目標と策定過程

#### (1) 課題・目標と設定理由、及び活動の内容と方法

阿久根市の折口地区は湿田が多く、長年遊休農地であった。一方で、出水市の規模拡大志向の青年農業者が農地を探しており、同地区での水田耕作を望んでいた。青年は、高尾野自営者クラブ会員でもあり、将来農業を担う若い青年農業者に対し、遊休農地の復田とWCS用稲作付けによる規模拡大を目標として取り組むこととした。

#### (2) 計画の策定過程

阿久根市農政課、農業委員会、JA鹿児島いずみ、農政普及課で構成される「阿久根市担い手サポートチーム会」にて計画策定を行った。

### 2 普及活動の内容

#### (1) 活動の経過

担い手サポートチーム会を定例で開催し、活動計画などの進行管理を行った。

活動時期	参 集 者	内 容
H29年 8月 9月	・支援農家、農政普及課 ・サポートチーム会(市、農、畜)	・計画検討 ・作付け計画、品種選定、畜産農家とのマッチング
12月	・支援農家、農政普及課	・復田作業
H30年 5月 5～8月 8月 12月～	・支援農家 ・農政普及課 ・支援農家、畜産農家 ・支援農家	・田植え ・水稲栽培管理指導 ・WCS用稲収穫作業 ・復田作業
H31年5～8月 R1年11月	・支援農家、畜産農家 ・支援農家、畜産農家	・WCS用稲栽培 ・イタリアライグラス作付け開始

#### (2) 指導・支援の体制

折口地区は湿田地帯であることと、天水頼み等考慮して技術的な対応策を検討した。作期分散のため、栽培品目は梅雨明け後収穫ができる中期（5月移植）水稲のWCS用稲とし、品種は「なつほのか」を選定した。WCS用稲は中干しをしっかりと行い、出穂後大型機械で収穫できるように水管理等の栽培管理指導を行った。

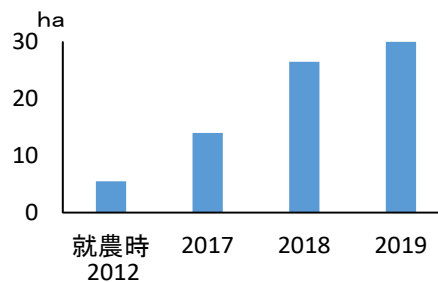
耕種農家は水稲関連の農作業機械はあるものの、飼料作物関連の機械は所有していないため、収穫作業を請け負う畜産農家が必要であった。畜産担当普及指導員と連携して、WCS用稲の需要のある長島町の青年農業者（畜産農家）とのマッチングを行い、収穫作業にかかる作業内容、経費について協議した（すべて畜産農家負担）。

### 3 普及活動の成果

#### (1) 課題及び目標の達成状況とその要因

遊休農地にWCS用稲を作付けすることで、経営面積が飛躍的に拡大することができた。

経営所得安定対策の直接支払交付金WCS用稲8万円/10aであることから、10ha(2019)作付けすることで800万円の粗収入に対し、必要経費は約6万円/10aなので所得が約200万円向上し、規模拡大志向農家の経営発展につながった。



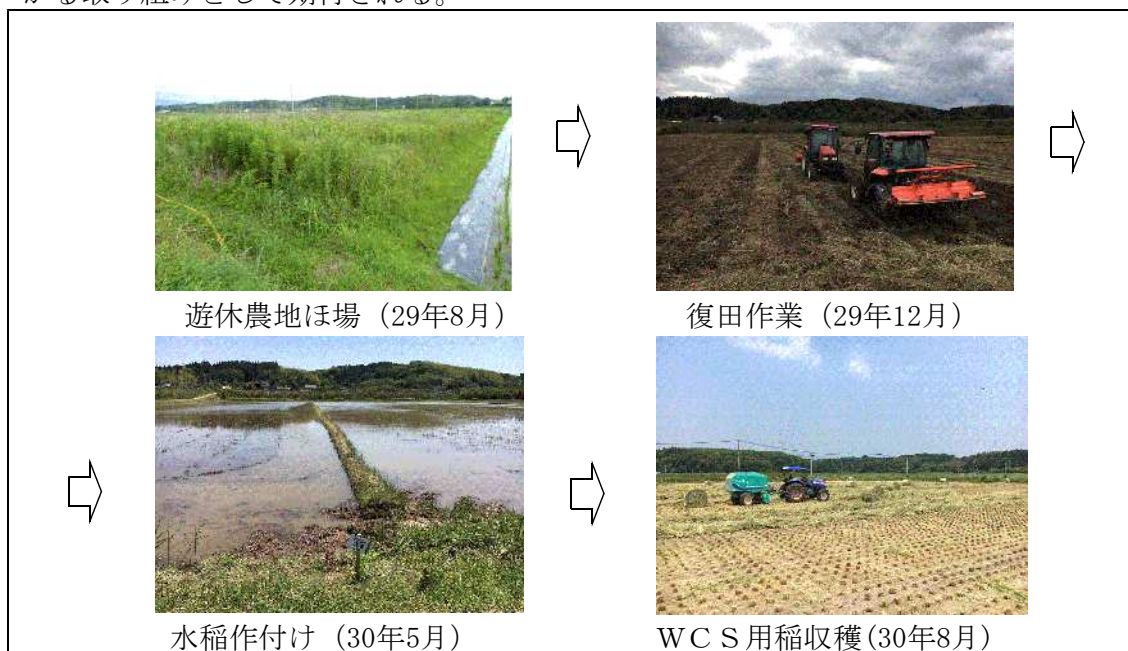
規模拡大志向農家の水稲作付面積の推移

#### (2) 活動に対する生産者・農家の評価

長島町の青年農業者（畜産農家）とマッチングが成立したことで、8月上旬WCS用稲は無事収穫することができた。畦畔の除去を行い連担団地とすることで、大区画で作業を行えるようになり、隣接する水田からの水の浸入もなく、作業性も大いに向上したことで畜産農家の高い評価を得ることができた。飼料畑の不足に苦勞していた長島町の畜産農家にとって自給飼料の確保が可能になり、増頭意欲につながった。

#### (3) 地域農業振興への貢献

これまで、阿久根市折口地区は、長年遊休農地となっていたが、復田され水田営農が復活した（約10ha）。地域住民も非常に喜んでおり、地域農業の維持・発展につながる取り組みとして期待される。



### 4 今後の普及活動に向けて

#### (1) 今後の課題

水田の高度利用として、水田裏にイタリアンライグラスを作付けし、二毛作について検討する（令和元年作付け開始）。

#### (2) 今後の活用に向けて

出水地域は、担い手も高齢化しており、今後遊休農地が増えてくると思われるので、大型法人農家の作業受託を含めて波及は十分考えられる。

人・農地プラン見直しを機会に、地域が5年後、10年後の農業について話し合い、農地の保全と農業の発展につながるようこの取り組みを他地域に波及する。